

奥山春季*: 八重咲のトウゴクミツバツツジ

Shunki OKUYAMA*: A horse-in-hose form of *Rhododendron Wadanum*.

昭和 24 年 6 月山梨縣三ツ峠山に於て植物採集会を催した折、山頂附近に於て八重咲一狭義の二重咲（フタヘザギ）のトウゴクミツバツツジを採集した。高さ 2 m 許あるたつた一株を見ただけだが、丁度満開で標本も十分採集し観察した結果未記録のものと思はれるので此処に報告する事にした。八重咲品には萼が瓣化したものと、雄蕊が瓣化したものとがあり、前者の場合は割合にその例に乏しいが、ヤマツツジの一品ヤヘザギヤマツツジ、キリシマツツジの栽培品八重ゲラ、ミヤマキリシマの栽培品ムラサキミノ等がある。後者の雄蕊が瓣化したものは、最も普通に見られるもので、八重咲品の大部分と言つてもよい。ツツジ科品について見ても、サツキの数品種、シロリウキウ（リウキウツツジ）の一品フデマンエフ、シロマンエフ、テウセンヤマツツジの一品ヨドガハツツジ、ヤマツツジとモチツツジの雑種と考へられてゐるテボタン及びシヤクナゲ節のネモトシヤクナゲ、ヤヘキバナシヤクナゲ等は雄蕊が瓣化したものである。

本品の様に萼が普通の花冠と何等変りない程まで、完全に變化して美しい花をつけたものが野生状態に於て見られる事は、稀品中の稀品と言つても過言ではない。花色はトウゴクミツバツツジのそれと変りなく、花は葉に先だつて開くから頗る美しい。次に少しく観察事項を記して見る。

1. 萼が瓣化し殆んど花冠と同色同形同大である。
2. 雄蕊数は 11—21 本で長短一様でない。20 本に近い花が最も多い。
3. 雌蕊は稀に認められるが、大部分の花には見当らない。往々雄蕊と殆んど同形で退化した柱頭様の直下に葯をつけ花糸の基部に白長毛を少しく認めるものがある。
4. 花糸が帯化し瓣状の色（紅紫色）を帯びたものもある。

以上を総括すれば萼が瓣化し雌蕊が雄蕊化し、雄蕊は横種の *R. Wadanum* の基本数 10 本が倍加の過程をたどり（即ち雄蕊の 11 本の 1 本は雌蕊の變化、21 本の 1 本もやはり雌蕊の變化したもので中間の数は、その倍加の過程を示す）更に進めば雌蕊も瓣化するものと考へられる。

Rhododendron Wadanum Makino f. **kai-montanum** Okuyama, n. form.

Calyx corollaceous, 5-fidus, segmentis ovatis vel ovato-oblongis, 15-20 mm longis, 10-12 mm latjs.

Nom. Jap. Futae-tôgoku-mitsuba-tsutsuji (nov.)

Hab. Honshû : Mt. Mitsutôge, prov. Kai (S. Okuyama, Jun. 5, 1949- typus in Herb. Nat. Sci. Mus.).

* 國立科學博物館 National Science Museum, Tokyo.